

巻頭言



神戸市長 久元 喜造

多くの人を引きつける国際都市神戸を目指して

神戸市は 1868 年の開港以来、多くの外国人が集まる「国際都市」として、経済的にも文化的にも発展してきました。市内には 8 つの外国人学校があり、日本最古のモスクやシナゴーク、ジャイナ教寺院など多様な宗教施設があります。こうした施設は外国人の生活が根ざしていることの証であるとともに、古くから形成されてきた多数の外国人コミュニティや外国人支援団体の存在とも相俟って、外国人が住みやすいまちの基礎となっています。神戸市内の在住外国人は 138 か国・地域約 4 万 9 千人（2019 年 10 月末現在）で、近年はベトナムなどアジアからの転入者が増加しています。今後も新たな在留資格の創設により、多様な国籍の外国人の増加が見込まれます。

海外都市との交流では、姉妹・友好都市及び親善協力都市として世界 10 都市と提携を行っています（シアトル、マルセイユ、リオ・デ・ジャネイロ、天津、リガ、ブリスベン、バルセロナ、仁川、フィラデルフィア、大邱）。近年は姉妹都市以外の都市との経済交流も進めています。昨年 10 月には米国・ポートランド市長が来神し、経済とまちづくりの交流促進に関する覚書に調印しました。今後、食やスタートアップ、クリーンテクノロジーなどの分野で連携・協力を図っていきます。また 2016 年より世界各地の神戸に縁のある方々に、神戸を応援していただく親睦組織として「Kobe International Club」を立ち上げ、現在は世界各地に 23 支部が発足し、シティプロモーションに協力いただいています。

一方在住外国人との共生に関しては、3 つの観点から施策を行っています。第一に「情報発信の充実」として、必要な情報をわかりやすくお伝えしています。（公財）神戸国際協力交流センターのホームページでは、最新の生活情報をやさしい日本語のほか 10 言語で提供しています。また、急増するベトナム人対応のため、ベトナム人職員が生活情報やまちの魅力などを定期的にベトナム語 Facebook で配信しています。第二に「コミュニケーション・多言語への対応」として、多言語スタッフによるワンストップ相談窓口（10 言語）を設けるとともに、「日本語を学習したことのない人」向けの日本語教室を開講するなど、日本語学習の環境づくりに取り組んでいます。最後に「日本人と外国人の相互理解」として、日本人と外国人の交流を推進しています。例えば、留学生が多数在籍しているという強みを活かし、留学生を「神戸市多文化交流員」に任命し、地域行事での通訳・翻訳支援や情報発信等の役割を担ってもらっています。

都市間連携と多文化共生を両輪に今後も更なる国際化を推進し、国籍に関係なく多くの人々を引きつける魅力あるまちを目指していきます。